

異宗教を融合・統合する仏教美術

—釈迦・弥勒・阿弥陀の信仰を軸に
インドから日本まで—

講師 宮治 昭 先生
(名古屋大学名誉教授)

〔時間〕 10:50～12:30 (2時限目)

〔場所〕 総合仏教研究所 研究室1 (3号館4階)

→ 1032教室 (10号館3階) (5月8日～5月22日)

→ 711教室 (7号館1階) (6月12日～7月10日)

- 第1回目 5月 8日(木) 古代インド仏教のチャイティヤ(聖樹・聖地・仏塔)
信仰について—精霊信仰との融合—
- 第2回目 5月22日(木) ストウパ・塔のかたちと世界観—インドから日本まで—
- 第3回目 6月12日(木) 転輪聖王神話との類比から見た仏像の誕生
—インド・イラン・ギリシア・ローマ文化の融合—
- 第4回目 6月26日(木) 弥勒信仰の美術—インド・ガンダーラから北魏へ—
- 第5回目 7月10日(木) 半跏思惟像を読み解く
—美術から見た菩薩信仰の一側面—
- 第6回目 10月 2日(木) ガンダーラ美術に見る阿弥陀信仰とその展開
—中国・日本へ—
- 第7回目 10月16日(木) バーミヤンの二大仏と仏龕天井壁画
—釈迦大仏・太陽神ミスラと弥勒大仏・兜率天世界—
- 第8回目 10月30日(木) 美術に見る弥勒下生信仰の隆盛
—大仏造立と下生経変—

本研究所では、特別講師に宮治昭先生をお迎えし、上記の日程で講義を開催いたします。

どなたでも聴講できますので、ふるってご参加ください。(聴講無料・予約不要)

【講義概要】

仏教は時空を超えてアジアに広く伝播した。仏教には思想・哲学としての発展もあるが、広範囲に広まった背景には僧たちの努力と共に、在家信者(王侯・貴族・商人・庶民)に「信仰」として積極的に受け入れられた所が大きい。それによって仏塔・寺院・仏像が建立、造像され、様々な儀礼が行われた。仏教は古代において一大文化を生み出す源泉であった。

今回の講座はこのことを念頭におきながら、古代インド、ガンダーラ、バーミヤンを重点にして、釈迦・弥勒・阿弥陀の三尊の信仰を中心に、美術の視点からその様相をインドから日本まで辿ってみたい(紀元前2～後8世紀頃)。仏教がアジアに広く広まったのは、一神教と異なり、異宗教を取り込む力をもつ宗教であったことであろう。「神仏習合」は日本でのみ興ったことではなく、インド以来のことで、しかもそれは単に神仏の融合ではなく、神仏の統合といえるものである。

【問い合わせ先】 大正大学総合仏教研究所 03-3918-7311(代表)

http://www.tais.ac.jp/library_labo/sobutsu/

※日程等に変更が生じた場合は、随時ご案内いたします。